

# 元祖 モリモリ書店

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書日より

ミス・シャーロックの  
糸をさがしてみたい……

第17話 R02.06.09(火)  
「本当に恐ろしいもの  
とはなんだろう。」

★今回、紹介する本は、『夏の災厄』(著/篠田節子、  
出版/角川文庫)。

東京近郊にある架空の都市である「昭川市」に、  
謎のウイルスが突如蔓延し、人々の命と心をむしば  
んでいく「パンデミック小説」を紹介。今の現代の  
状況ともシンクロする部分が多いのが特徴。しかも、  
この作品、約23年前の作品というから驚きです。

平凡な町である「昭川市」に、ある日突然、熱に  
浮かされ、けいれんしながら亡くなっていく謎の病  
が発見される。しかし、行政や政府、大手病院の動  
きは鈍く、病はどんどん広がっていく。

この作品で、行動を起こすのは、保健センターの  
職員を中心とした普通の人々。一つ一つの「命」を  
なんとかしてでも救おうと行動する姿に胸をうたれます。と同時に、無関心な社会や保  
身に走る政府など、現実の闇を浮き彫りにします。600ページの長編ですが、ぜひ。



夏の災厄  
篠田節子

志外と、本屋に売ってないし、で、す、よ、ね……

角川文庫 SHINODA SETSUKO NATSU NO SAIYAKU

『どうにか、  
できるものなんてね。  
(p.587)』

『信用するに足る  
ほど、人間は  
合理的で  
知性的な  
生きものではない。  
(p.432)』

ドラマチックに描くこと  
よりは、冷静な  
感じなので、  
余計にこわい。

無関心、他人事バ、  
と、とてもおそろしい……

